

二、山北爲國頭省、府九、府土名間切、所屬皆稱村頭、土名母喇國中亦有五嶽、辨嶽在中山、八頭嶽在
山南、佳楚嶽、名護嶽、恩納嶽在、山北、比他山爲高佳楚嶽、尤峻爲琉球第一峯云、

〔西遊雜記〕^四薩州の地より琉球迄の海上、諸板にも顯し、琉球志杯にも其實說委しからず、今土人の言所、山川といふ津より南の方にあたりて、凡三百里計、夏冬によつて船路の替り有といへ共、其間に連る島大小三十餘、何れも船懸ある島にて、大坂へ往來せる海上よりも安し、薩州大隅の浦々に、國守よりのゆるしの廻船ありて、一ケ年に幾度といふ御定めありて渡海する也、鹿兒島よりも、士格の人数琉球の地へ渡りて勤番する役所も有る事にて、米のよく生ずる風土にて、二十餘万石薩州上納す、近き年の事にや、琉球すべて早魃して、稻熟せず、暖國にて、稻は五月熟頃也、國民飢渴せんとす、此時には、薩州侯數石の米を渡して、すくひ給ふ年あり、すべて琉球人日本の風俗を慕ひて、薩州に屬せるといへども、中華福建省の地へ近く、や、もすれば福州の爲になやまさる、事によつて、福建省の下知にも應じて聘禮する事也、薩州にては、知りても知らぬ體にて、是迄濟來りしといふ、

氣候

〔華夷通商考〕^下琉球

此國過半ハ福州ニ從ヒタル國ニテ、唐ヨリ往來モ有之也、薩摩ヨリ往來之所モ有之也、四季日本ヨリ暖ナリ、海上薩摩ヨリ二百里南西當レル島國也、

〔中山聘使略〕雜事

彼國^{琉球}○北極出地二十六度二分三釐の地にして、時令大に皇國と同からず、其地氷雪なく、草木冬を経て枯れず、四方の山野蒼々たり、百蟲蟄せず、四時蚊帳をたる、甘藷植るに時なし、稻九月種を下し、五月刈收め、六月には田に禾穗なし、一年再登す、梅九月花さく、貧賤の小民は、芭蕉布の單衣一にて冬を涉るといへり、